２　災害時における県民の備えや意識について

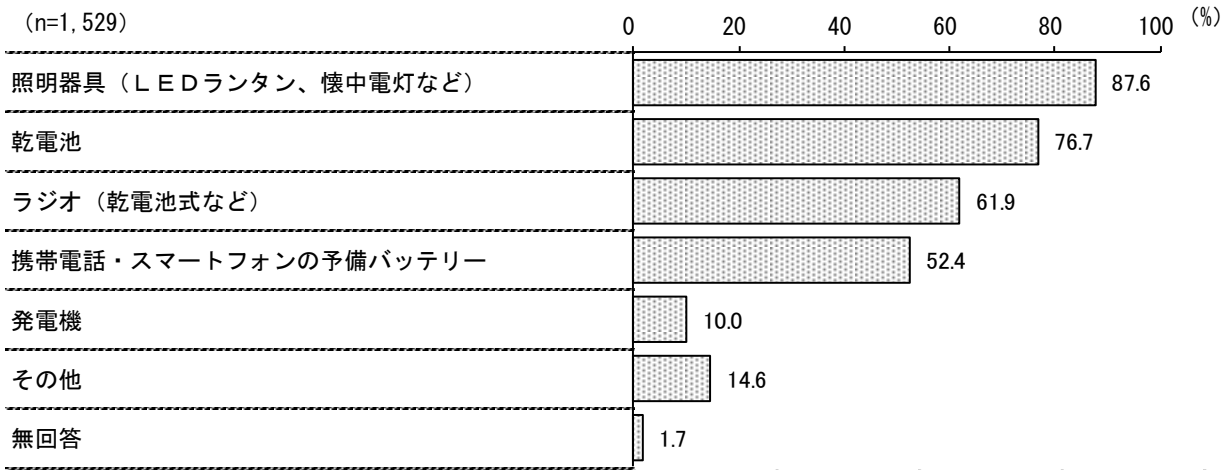
（１）災害時の停電に備えた準備

◇「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など）」が約９割

県では、令和元年房総半島台風（台風１５号）をはじめとする一連の災害対応への検証を踏まえ、さまざまな防災対策に取り組んでいます。今後の取組推進の参考とするため、皆さまの意識をお聞きいたします。

問16　災害時の停電に備えて準備しているものはありますか。（○はいくつでも）

＜図表２－１＞災害時の停電に備えた準備



災害時の停電に備えて準備しているものを聞いたところ、「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など）」(87.6%)が約９割で最も高く、以下、「乾電池」(76.7%)、「ラジオ(乾電池式など)」(61.9%)、「携帯電話・スマートフォンの予備バッテリー」（52.4%）が続く。（図表２－１）

【地域別】

地域別にみると、「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など)」は“千葉地域”（91.1%）が９割を超えて高くなっている。

「発電機」は“安房地域”（31.3%）が３割を超えて高くなっている。（図表２－２）

【性・年代別】

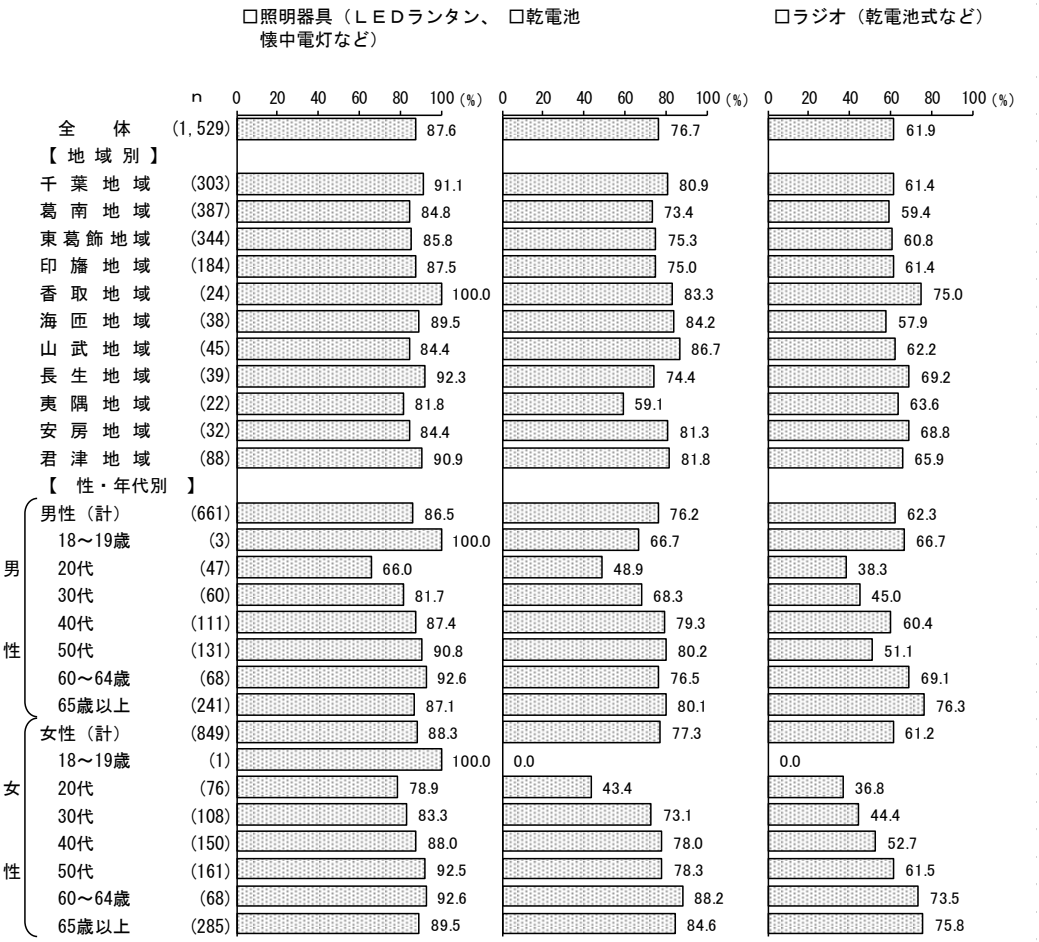
性・年代別にみると、「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など)」は女性の50代（92.5%）が９割を超えて高くなっている。

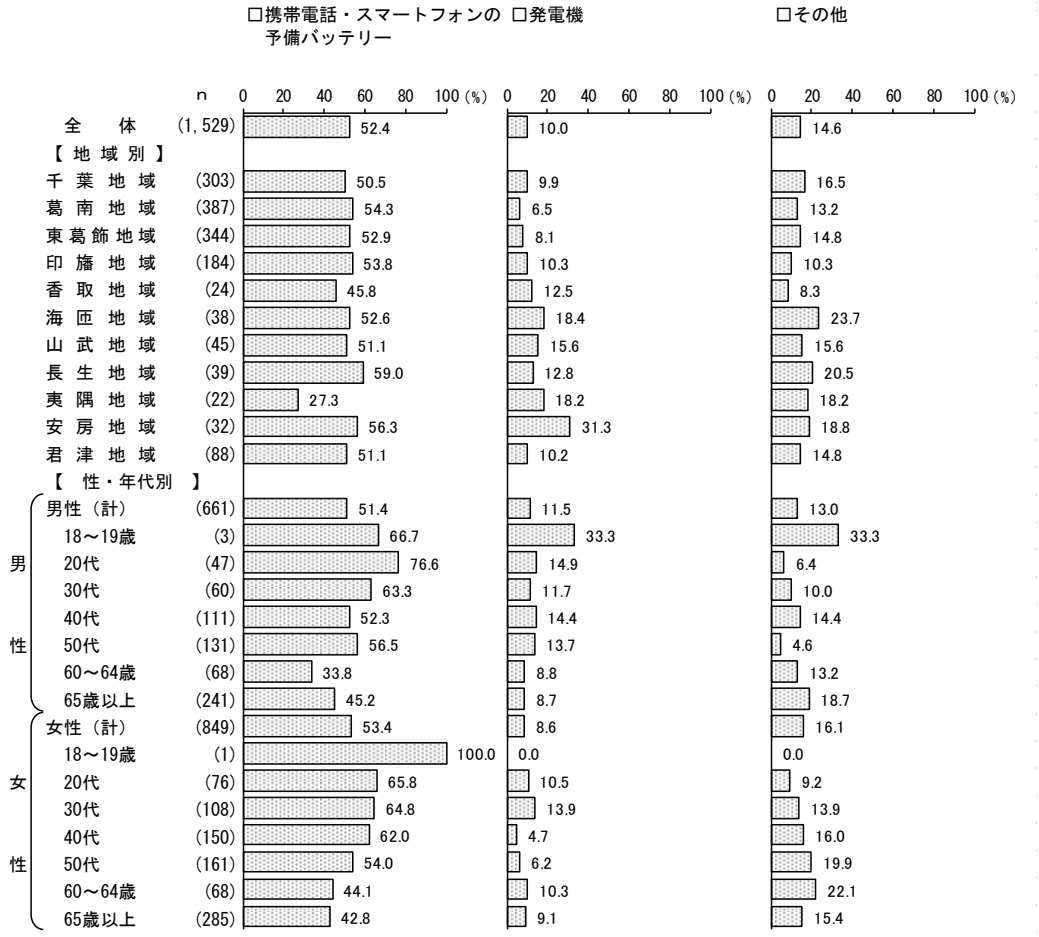
「乾電池」は女性の60～64歳（88.2%）が約９割、女性の65歳以上（84.6%）が８割台半ばで高くなっている。

「ラジオ（乾電池式など)」は男性の65歳以上（76.3%)、女性の65歳以上（75.8%)、女性の60～64歳（73.5%）が７割台半ばで高くなっている。

「携帯電話・スマートフォンの予備バッテリー」は男性の20代（76.6%）が７割台半ば、女性の20代（65.8%）と女性の30代（64.8%）が６割台半ば、女性の40代（62.0%）が６割を超えて高くなっている。（図表２－２）

＜図表２－２＞災害時の停電に備えた準備／地域別、性・年代別



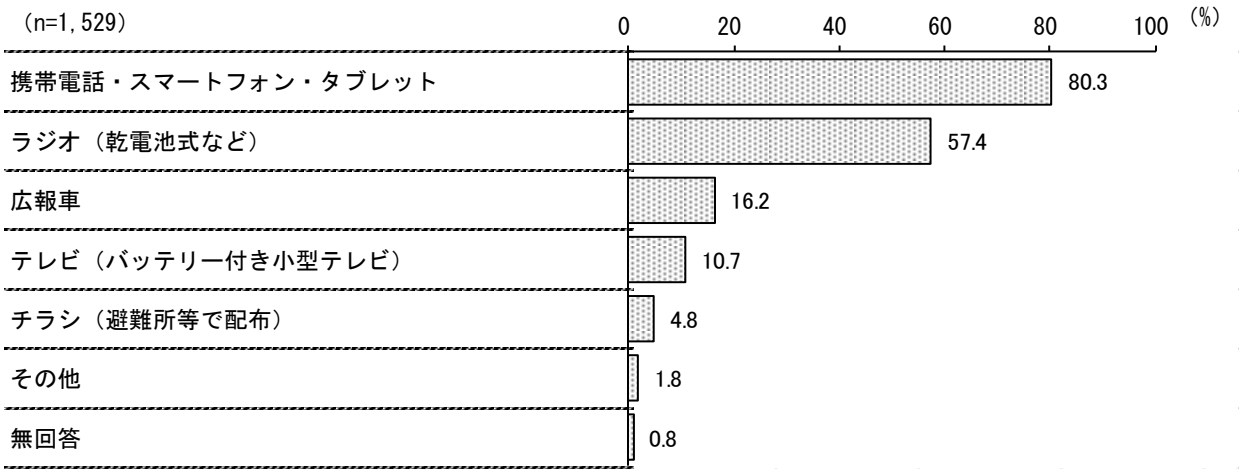


（２）停電時の情報入手手段

◇「携帯電話・スマートフォン・タブレット」が８割

問17　停電時の情報の入手手段として主に何を利用すると考えていますか。（○は２つまで）

＜図表２－３＞停電時の情報入手手段



停電時の情報の入手手段を聞いたところ、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」（80.3%）が８割で最も高く、以下、「ラジオ（乾電池式など）」（57.4%）、「広報車」（16.2%）が続く。

（図表２－３）

【地域別】

地域別にみると、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」は“東葛飾地域”（86.3%）が８割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

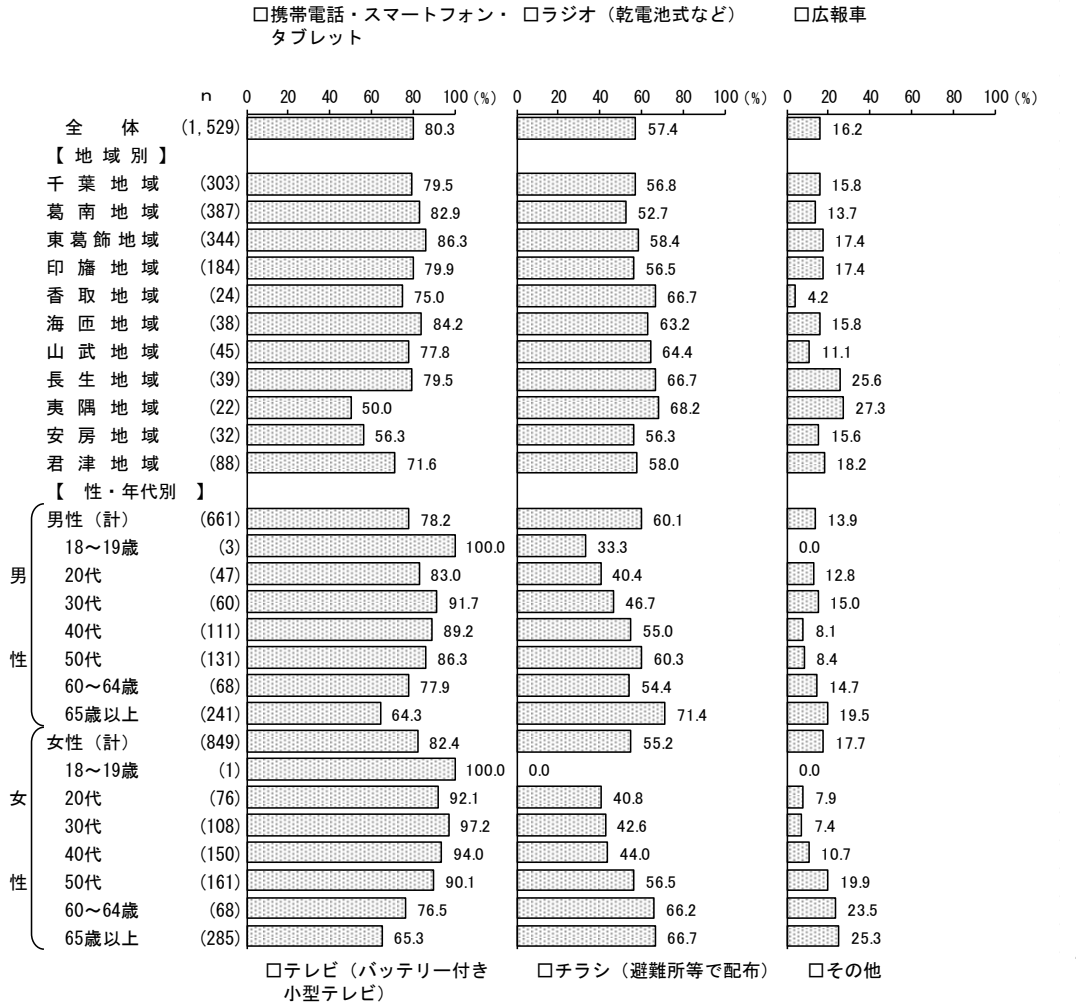
【性・年代別】

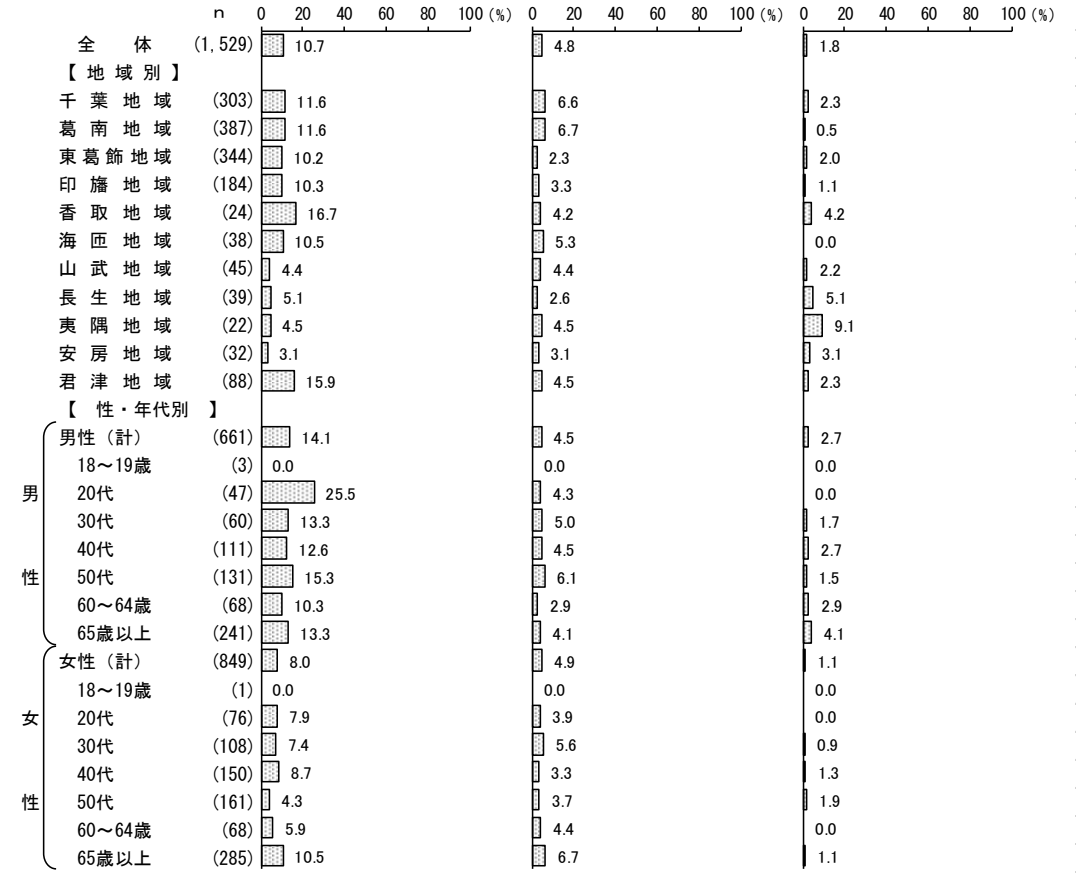
性・年代別にみると、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」は女性の30代（97.2%）が約10割、女性の40代（94.0%）が９割台半ば、女性の20代（92.1%）と男性の30代（91.7%）が９割を超え、女性の50代（90.1%）が９割、男性の40代（89.2%）が約９割で高くなっている。

「ラジオ（乾電池式など）」は男性の65歳以上（71.4%）が７割を超え、女性の65歳以上（66.7%）が６割台半ばで高くなっている。

「広報車」は女性の65歳以上（25.3%）が２割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

＜図表２－４＞停電時の情報入手手段／地域別、性・年代別





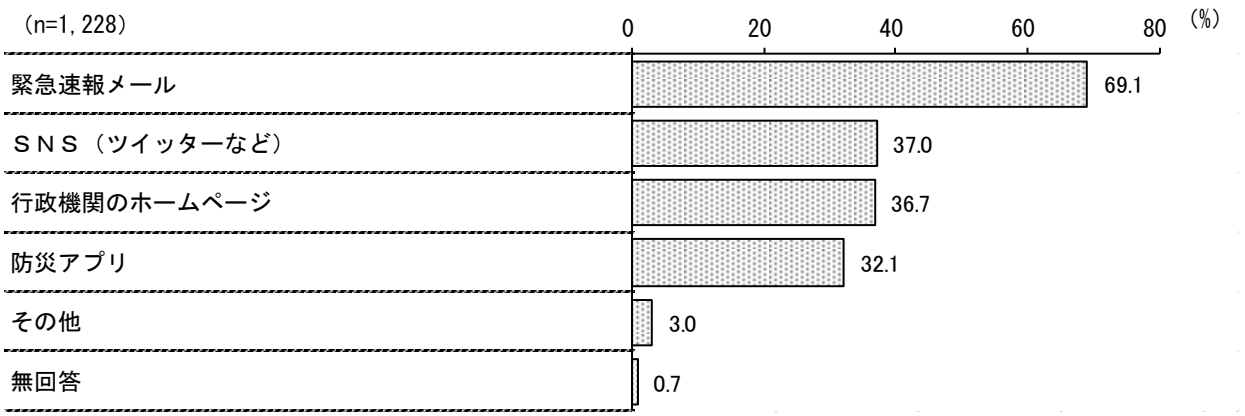
（２－１）携帯電話・スマートフォン・タブレットでの主な情報の入手手段

◇「緊急速報メール」が約７割

（問17で「携帯電話・スマートフォン・タブレット」をお答えの方に）

問17-1　主な情報の入手手段・入手先は何ですか。（○は２つまで）

＜図表２－５＞携帯電話・スマートフォン・タブレットでの主な情報の入手手段



停電時の情報入手手段で「携帯電話・スマートフォン・タブレット」と回答された方に、主な情報の入手手段・入手先を聞いたところ、「緊急速報メール」（69.1%）が約７割で最も高く、以下、「ＳＮＳ（ツイッターなど）」(37.0%)、「行政機関のホームページ」(36.7%)、「防災アプリ」(32.1%)が続く。（図表２－５）

【地域別】

地域別にみると、「防災アプリ」は“海匝地域”（50.0%）が５割で高くなっている。

（図表２－６）

【性・年代別】

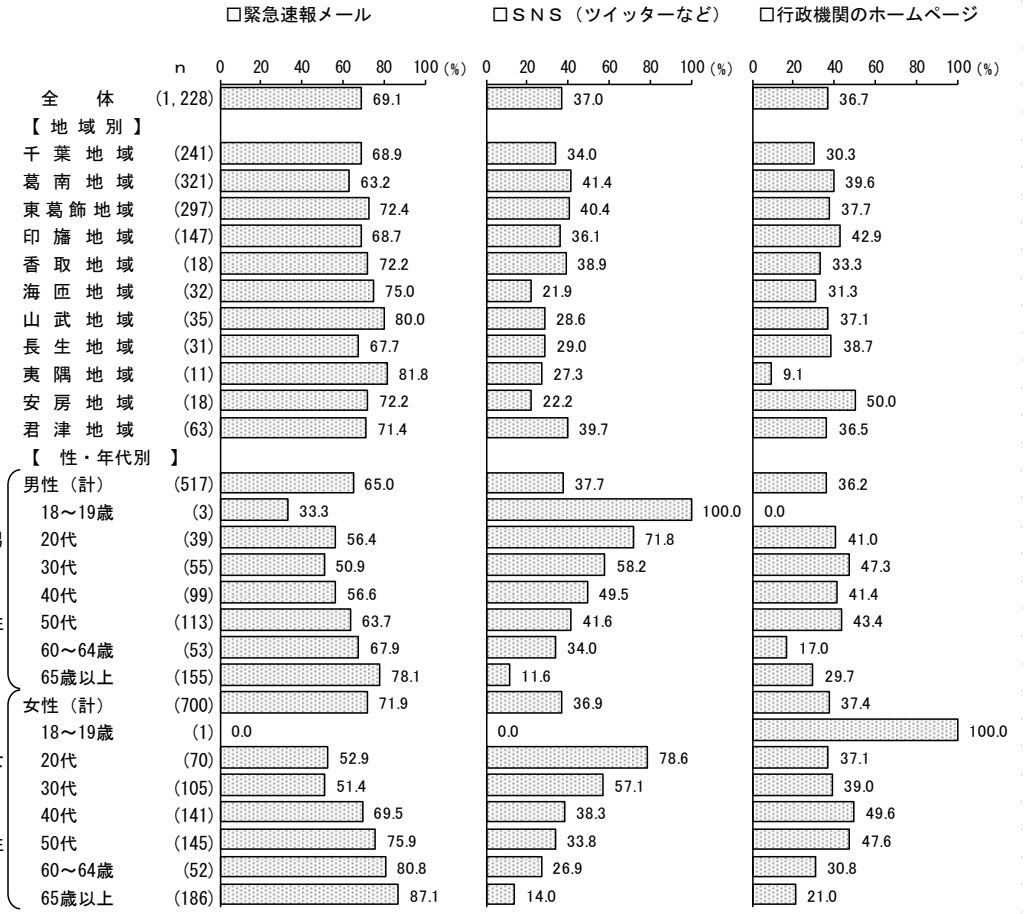
性・年代別にみると、「緊急速報メール」は女性の65歳以上（87.1%）が約９割、男性の65歳以上（78.1%）が約８割で高くなっている。

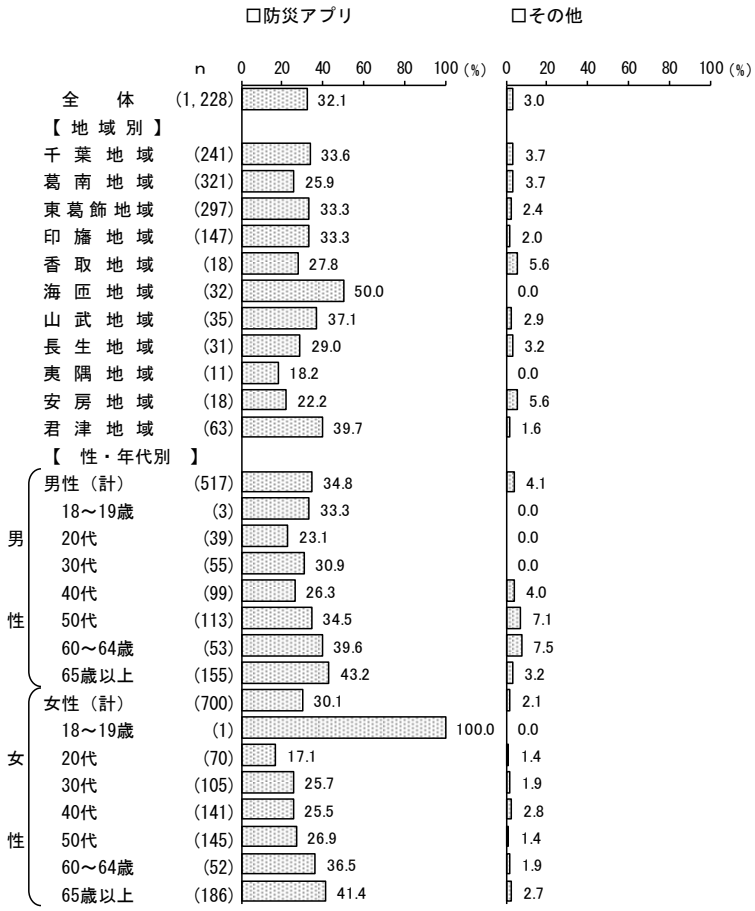
「ＳＮＳ（ツイッターなど）」は女性の20代（78.6%）が約８割、男性の20代（71.8%）が７割を超え、男性の30代（58.2%）と女性の30代（57.1%）が約６割、男性の40代（49.5%）が約５割で高くなっている。

「行政機関のホームページ」は女性の40代（49.6%）と女性の50代（47.6%）が約５割で高くなっている。

「防災アプリ」は男性の65歳以上（43.2%）と女性の65歳以上（41.4%）が４割を超えて高くなっている。（図表２－６）

＜図表２－６＞携帯電話・スマートフォン・タブレットでの主な情報の入手手段／地域別、性・年代別



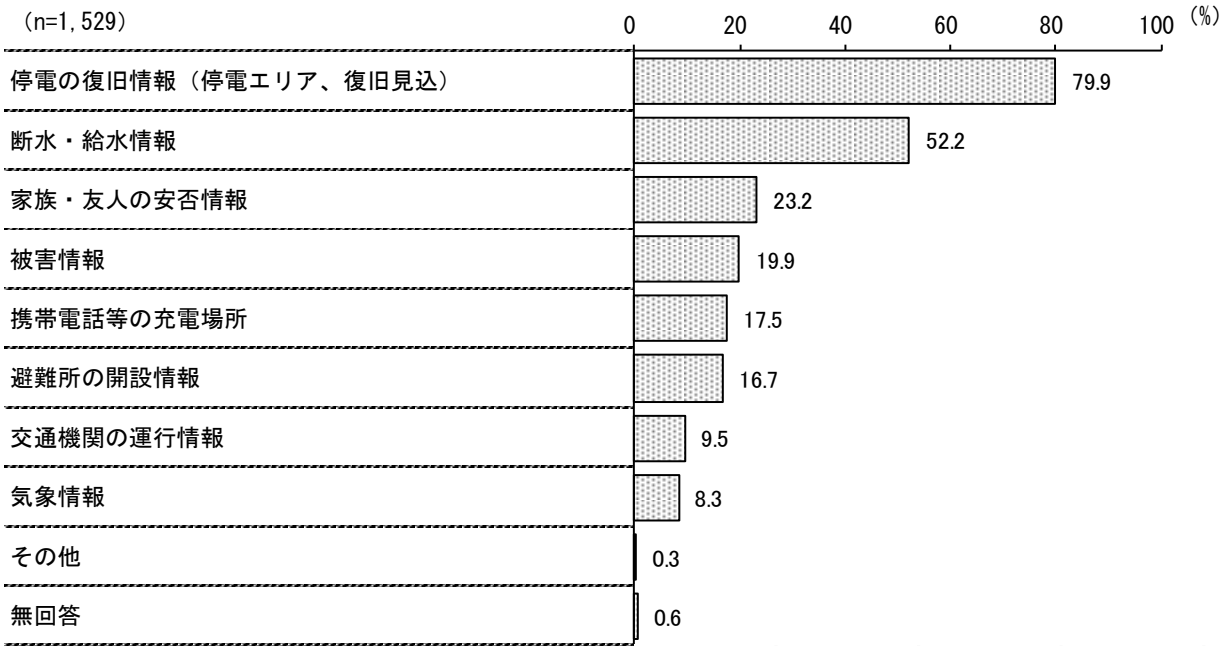


（３）停電時に必要な情報

◇「停電の復旧情報（停電エリア、復旧見込）」が約８割

問18　停電時に特に必要な情報は何ですか。（○は２つまで）

＜図表２－７＞停電時に必要な情報



停電時に必要な情報を聞いたところ、「停電の復旧情報（停電エリア、復旧見込）」（79.9%）が約８割で最も高く、以下、「断水・給水情報」（52.2%）、「家族・友人の安否情報」（23.2%）、「被害情報」（19.9%）が続く。（図表２－７）

【地域別】

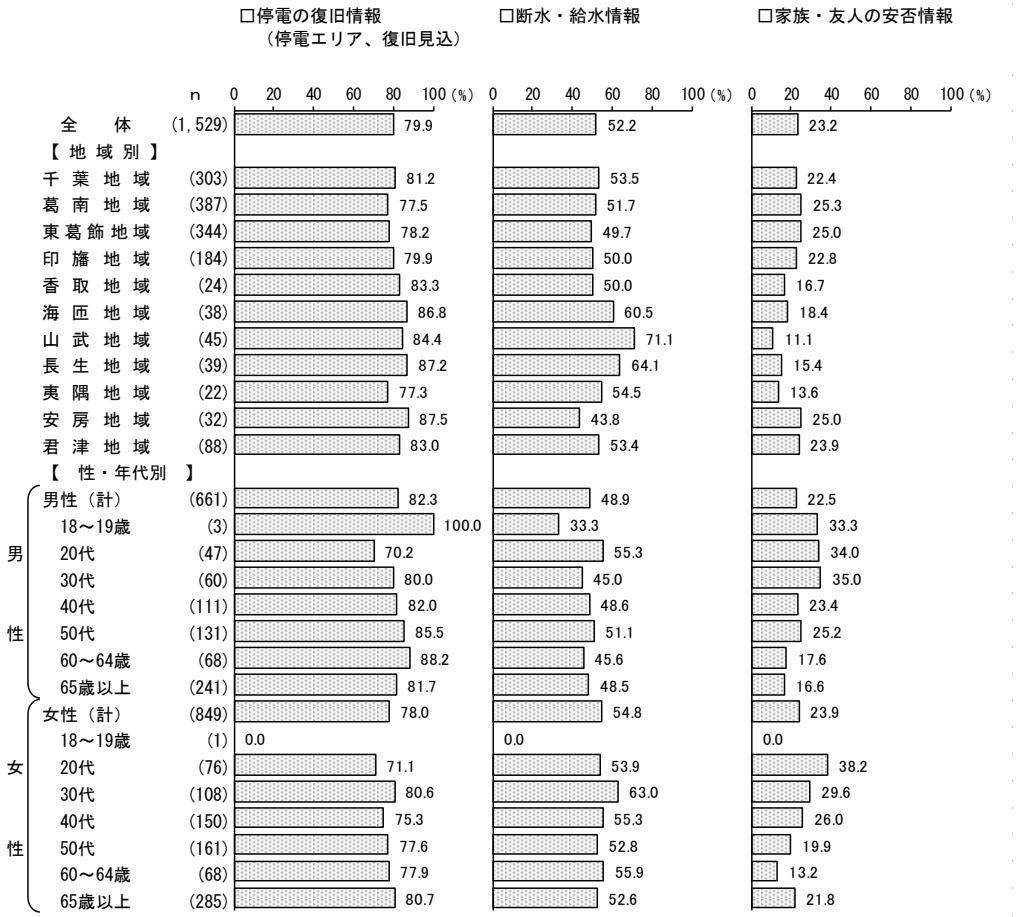
地域別にみると、「断水・給水情報」は“山武地域”（71.1%）が７割を超えて高くなっている。（図表２－８）

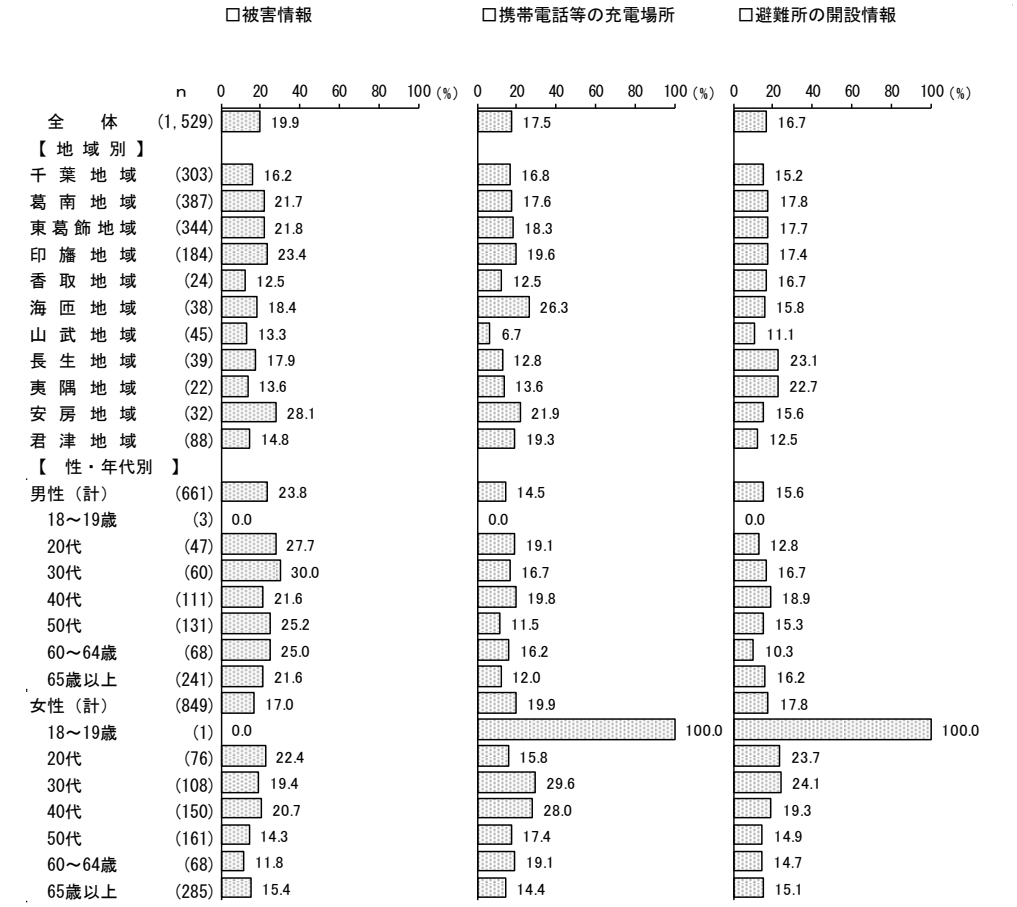
【性・年代別】

性・年代別にみると、「断水・給水情報」は女性の30代（63.0%）が６割を超えて高くなっている。

「家族・友人の安否情報」は女性の20代（38.2%）が約４割、男性の30代（35.0%）が３割台半ばで高くなっている。（図表２－８）

＜図表２－８＞停電時に必要な情報／地域別、性・年代別



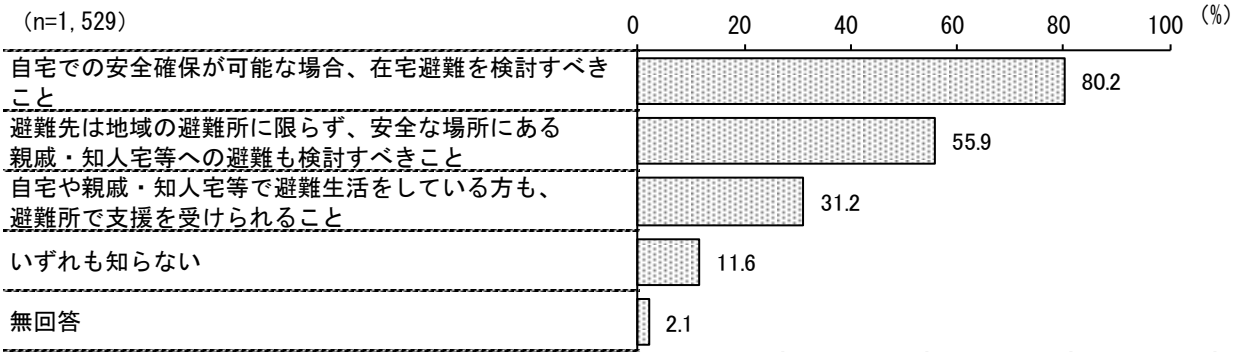


（４）災害時の避難方法の認知状況

◇「自宅での安全確保が可能な場合、在宅避難を検討すべきこと」が８割

問19　災害時の避難に関して、以下の事項を知っていますか。（○はいくつでも）

＜図表２－９＞災害時の避難方法の認知状況



災害時の避難方法の認知状況について聞いたところ、「自宅での安全確保が可能な場合、在宅避難を検討すべきこと」（80.2%）が８割で最も高く、以下、「避難先は地域の避難所に限らず、安全な場所にある親戚・知人宅等への避難も検討すべきこと」（55.9%）、「自宅や親戚・知人宅等で避難生活をしている方も、避難所で支援を受けられること」（31.2%）が続く。

一方で、「いずれも知らない」（11.6%）は１割を超えている。（図表２－９）

【地域別】

地域別にみると、「避難先は地域の避難所に限らず、安全な場所にある親戚・知人宅等への避難も検討すべきこと」は“海匝地域”（73.7%）が７割台半ばで高くなっている。

一方で、「いずれも知らない」は“君津地域”（20.5%）が２割で高くなっている。

（図表２－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「自宅での安全確保が可能な場合、在宅避難を検討すべきこと」は女性の60～64歳（89.7%）が約９割で高くなっている。

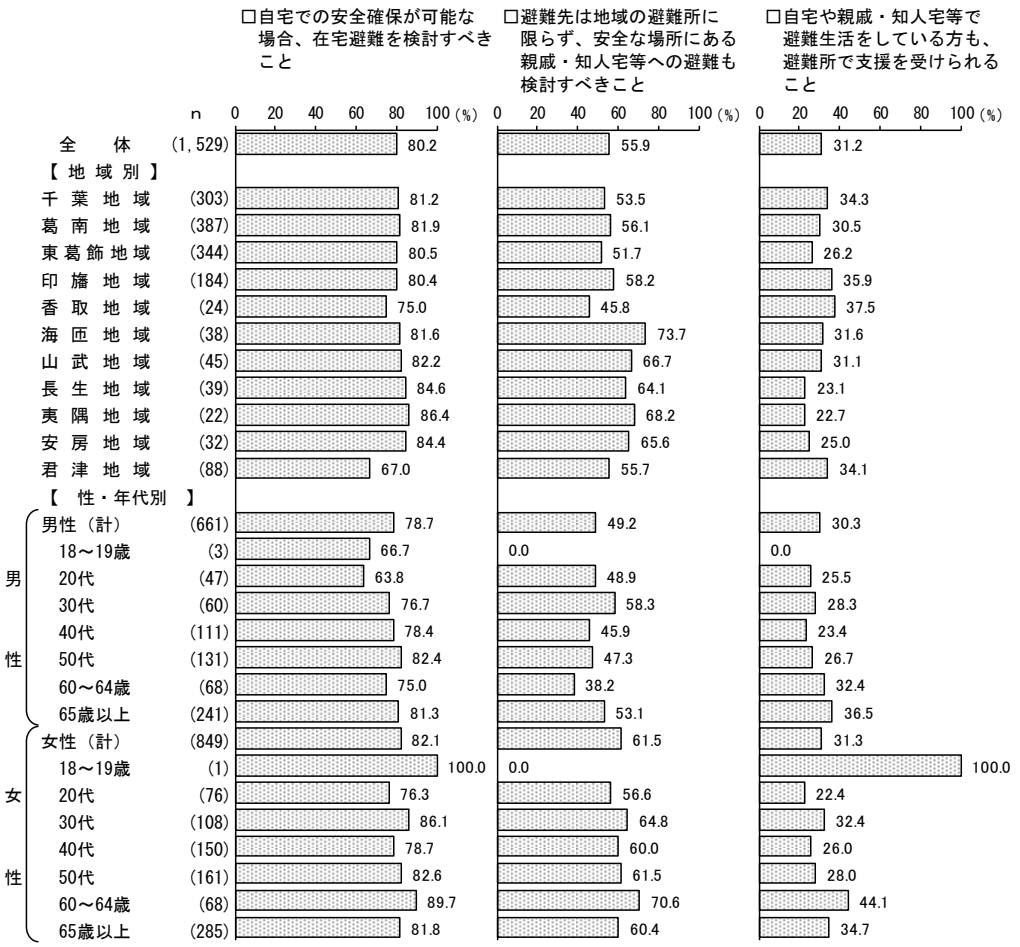
「避難先は地域の避難所に限らず、安全な場所にある親戚・知人宅等への避難も検討すべきこと」は女性の60～64歳（70.6%）が７割で高くなっている。

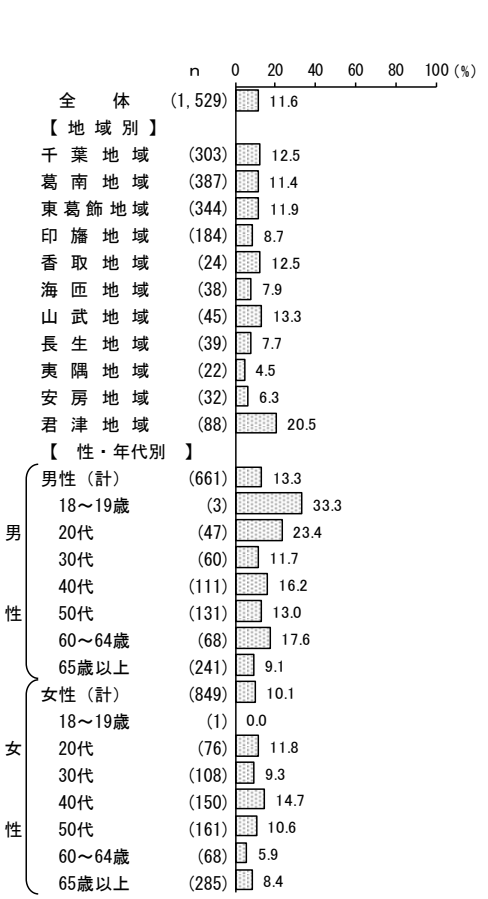
「自宅や親戚・知人宅等で避難生活をしている方も、避難所で支援を受けられること」は女性の60～64歳（44.1%）が４割台半ばで高くなっている。

一方で、「いずれも知らない」は男性の20代（23.4%）が２割を超えて高くなっている。

（図表２－10）

＜図表２－10＞災害時の避難方法の認知状況／地域別、性・年代別



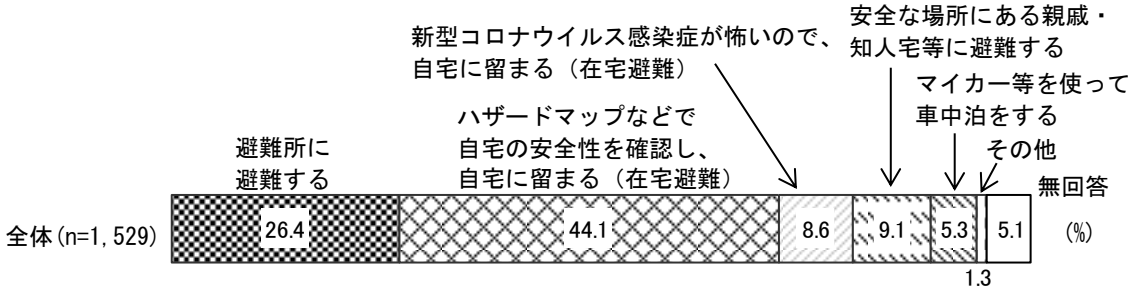


（５）地域に浸水のおそれがある場合の避難方法

◇「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」が４割台半ば

問20　お住まいの地域に浸水のおそれがある場合、どのように避難しますか。（○は１つ）

＜図表２－11＞地域に浸水のおそれがある場合の避難方法



地域に浸水のおそれがある場合の避難方法について聞いたところ、「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」（44.1%）が４割台半ばで最も高く、以下、「避難所に避難する」（26.4%）、「安全な場所にある親戚・知人宅等に避難する」（9.1%）が続く。

（図表２－11）

【地域別】

地域別にみると、「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」は“印旛地域”（52.2%）が５割を超え、“葛南地域”（48.6%）が約５割で高くなっている。

「避難所に避難する」は“夷隅地域”（50.0%）が５割、“東葛飾地域”（34.3%）が３割台半ばで高くなっている。

「安全な場所にある親戚・知人宅等に避難する」は“香取地域”（25.0%）が２割台半ば、“君津地域”（18.2%）が約２割で高くなっている。（図表２－12）

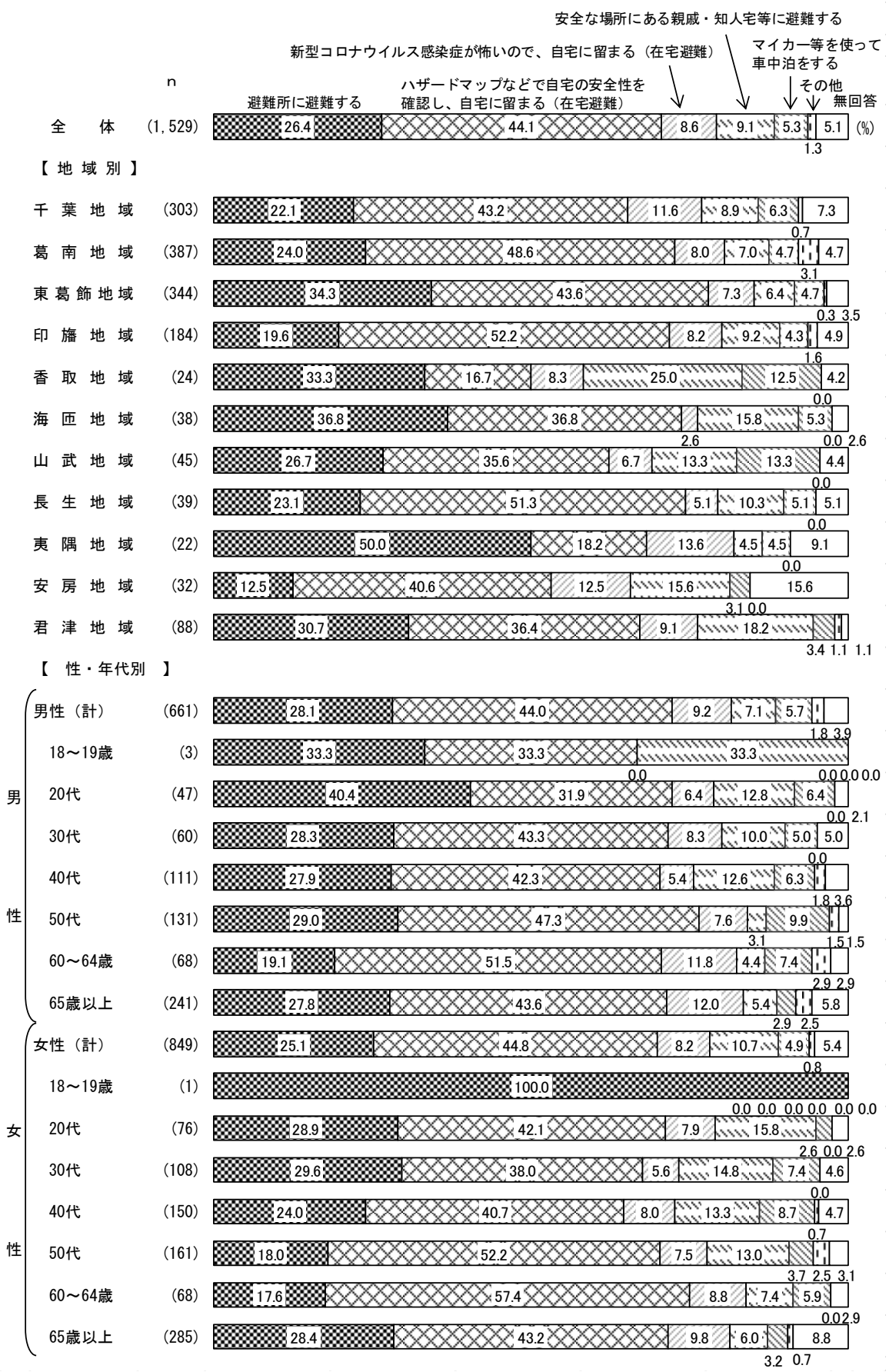
【性・年代別】

性・年代別にみると、「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」は女性の60～64歳（57.4%）が約６割、女性の50代（52.2%）が５割を超えて高くなっている。

「避難所に避難する」は男性の20代（40.4%）が４割で高くなっている。

「安全な場所にある親戚・知人宅等に避難する」は女性の20代（15.8%）と女性の30代（14.8%）が１割台半ばで高くなっている。（図表２－12）

＜図表２－12＞地域に浸水のおそれがある場合の避難方法／地域別、性・年代別



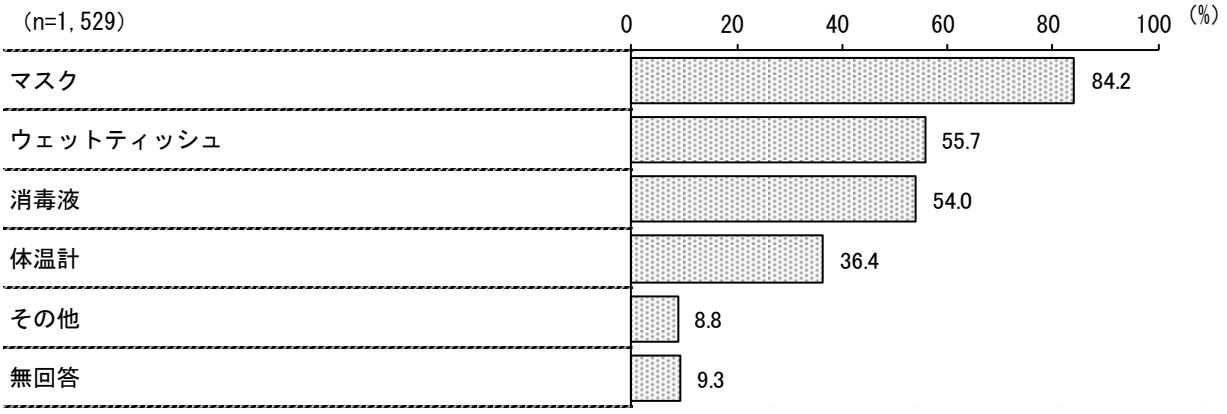
（６）避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策

◇「マスク」が８割台半ば

問21　避難所に避難することになった場合に備えて、新型コロナウイルス感染症対策として、以下のものを持ち出せるように非常持ち出し袋に加えるなど準備をしていますか。

（○はいくつでも）

＜図表２－13＞避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策



避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策について聞いたところ、「マスク」（84.2%）が８割台半ばで最も高く、以下、「ウェットティッシュ」（55.7%）、「消毒液」（54.0%）、「体温計」（36.4%）が続く。（図表２－13）

【地域別】

地域別にみると、「体温計」は“海匝地域”（57.9%）が約６割、“千葉地域”（42.2%）が４割を超えて高くなっている。（図表２－14）

【性・年代別】

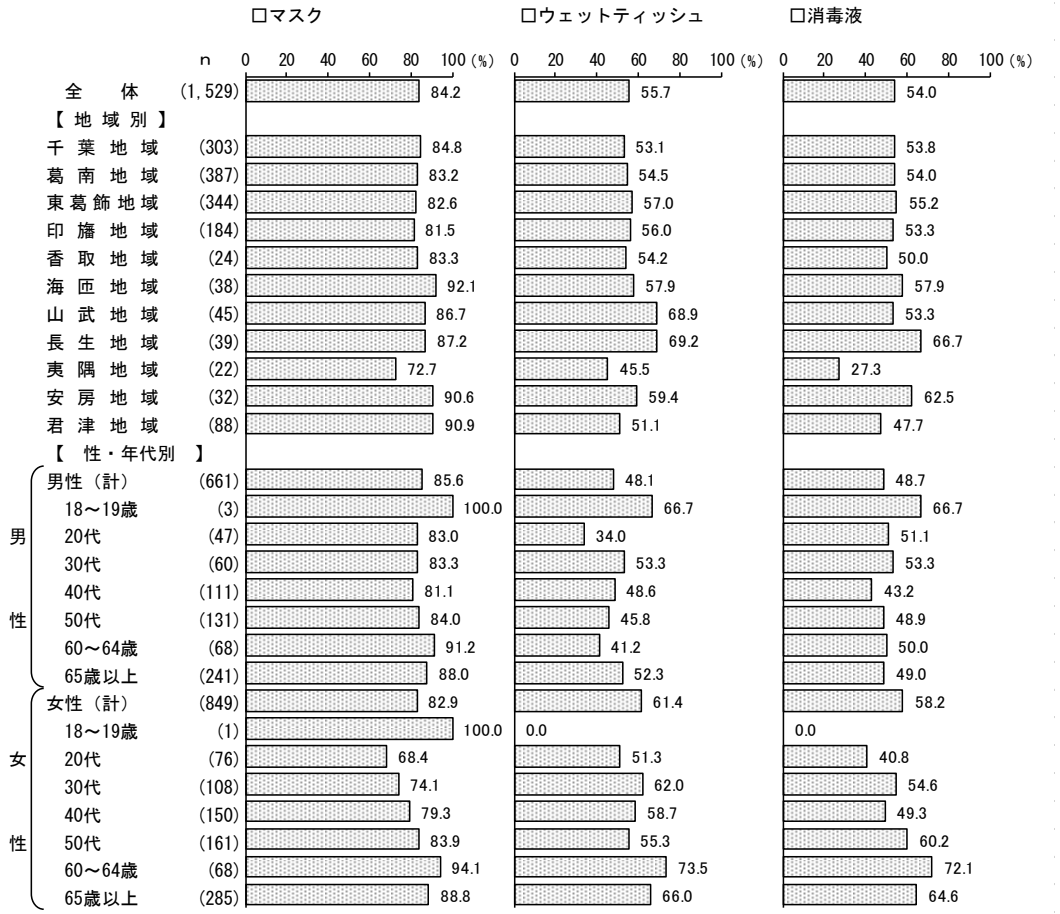
性・年代別にみると、「マスク」は女性60～64歳（94.1%）が９割台半ば、女性の65歳以上（88.8%）が約９割で高くなっている。

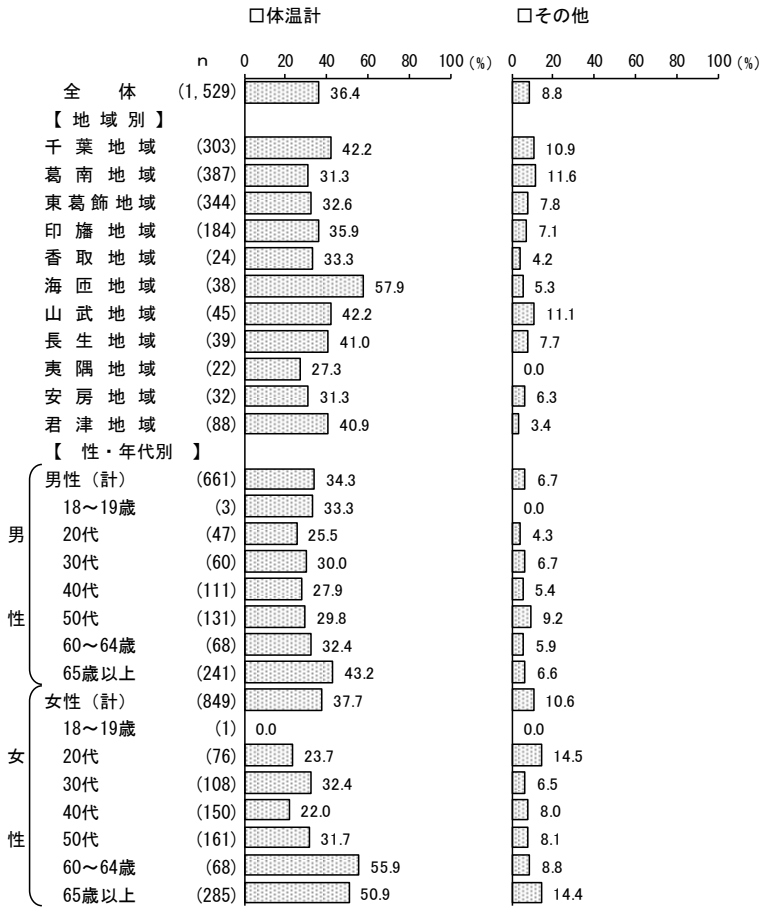
「ウェットティッシュ」は女性60～64歳（73.5%）が７割台半ば、女性の65歳以上（66.0%）が６割台半ばで高くなっている。

「消毒液」は女性60～64歳（72.1%）が７割を超え、女性の65歳以上（64.6%）が６割台半ばで高くなっている。

「体温計」は女性60～64歳（55.9%）が５割台半ば、女性の65歳以上（50.9%）が５割、男性の65歳以上（43.2%）が４割を超えて高くなっている。（図表２－14）

＜図表２－14＞避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策／地域別、性・年代別



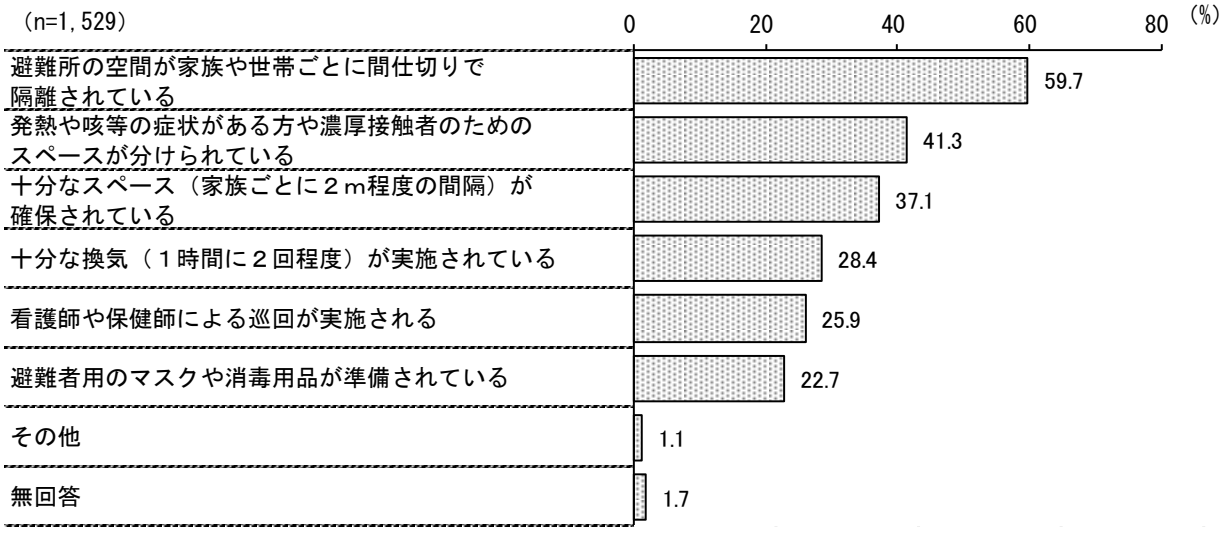


（７）避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策

◇「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」が約６割

問22　避難所において、どのような新型コロナウイルス感染症対策がなされていれば安心して避難できると思いますか。（○は２つまで）

＜図表２－15＞避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策



避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策についてきいたところ、「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」（59.7%）が約６割で最も高く、以下、「発熱や咳等の症状がある方や濃厚接触者のためのスペースが分けられている」（41.3%）、「十分なスペース（家族ごとに２m程度の間隔）が確保されている」（37.1%）、「十分な換気（１時間に２回程度）が実施されている」（28.4%）が続く。（図表２－15）

【地域別】

地域別にみると、「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」は“葛南地域”（64.1%）が６割台半ばで高くなっている。

「十分なスペース（家族ごとに２m程度の間隔）が確保されている」は“長生地域”（53.8%）が５割台半ばで高くなっている。（図表２－16）

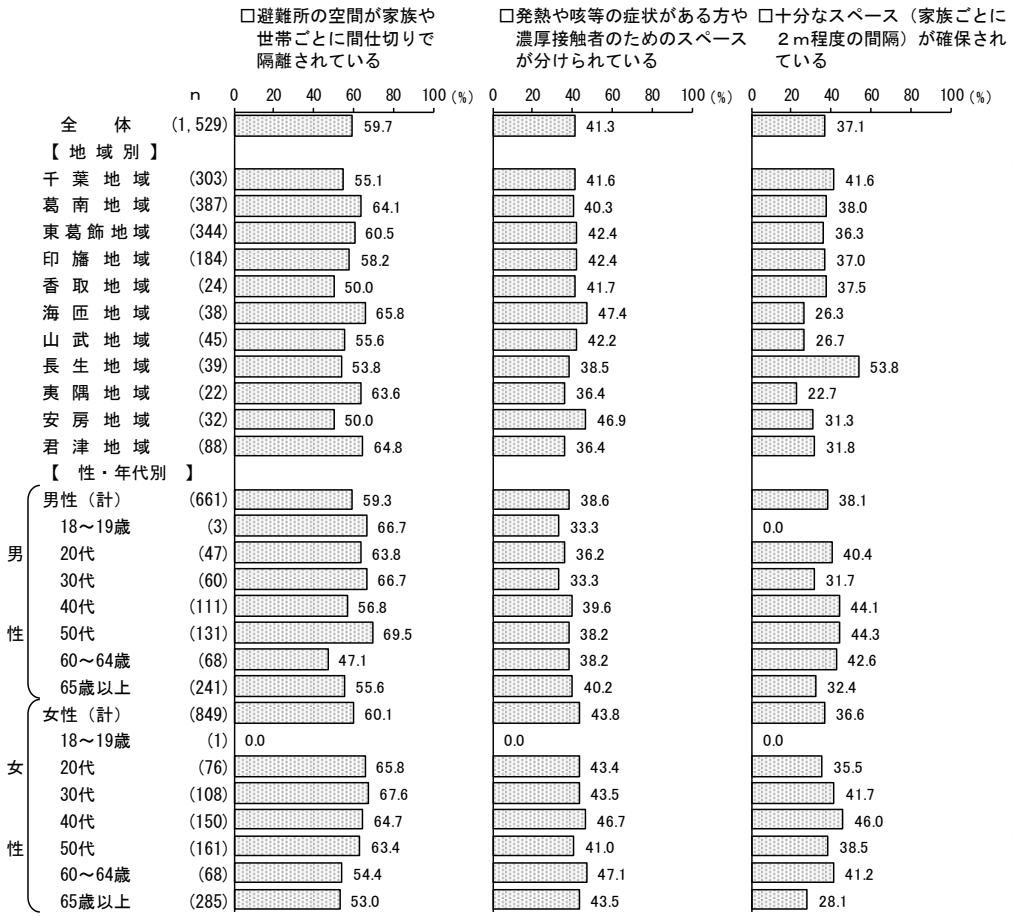
【性・年代別】

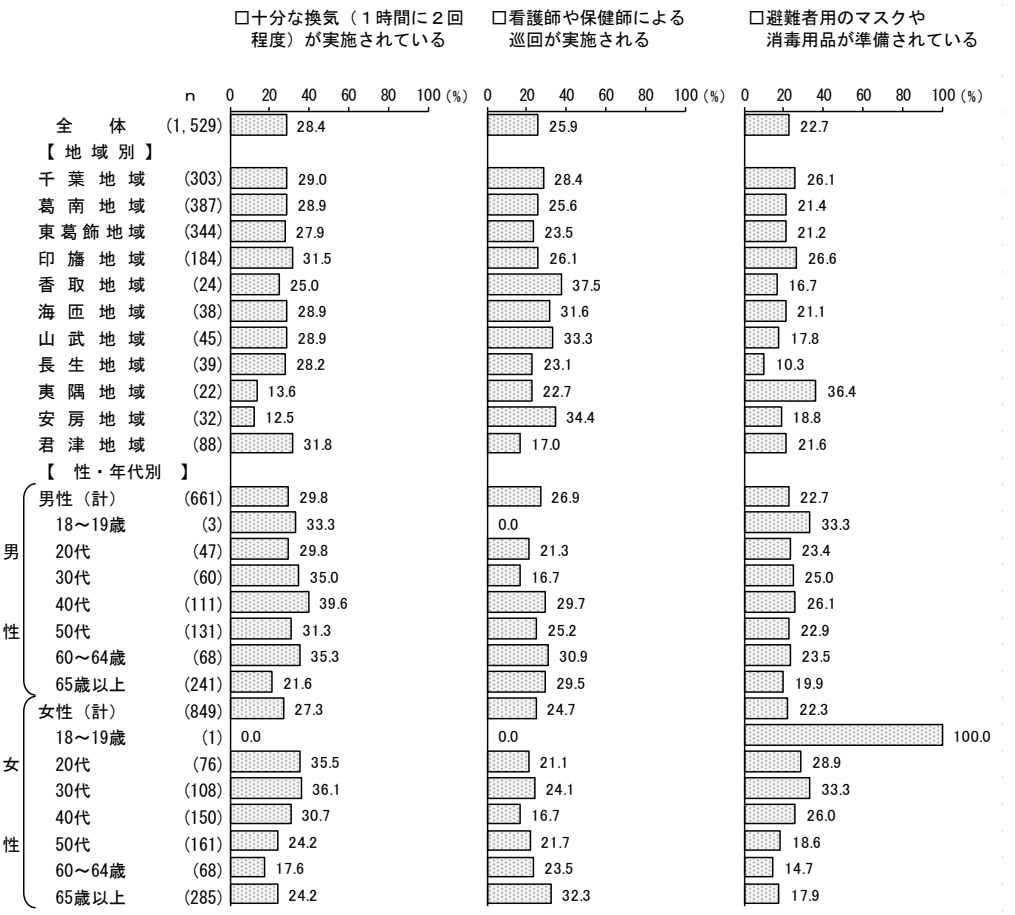
性・年代別にみると、「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」は男性の50代（69.5%）が約７割で高くなっている。

「十分なスペース（家族ごとに２m程度の間隔）が確保されている」は女性の40代（46.0%）が４割台半ばで高くなっている。

「十分な換気（１時間に２回程度）が実施されている」は男性の40代（39.6%）が約４割で高くなっている。（図表２－16）

＜図表２－16＞避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策／地域別、性・年代別





このほかに、「災害時における県民の備えや意識について」やここまでの質問（問16～問22）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、205人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「災害時における県民の備えや意識について」の自由回答（抜粋）

○避難所において、衝立等を利用した家族単位でのスペースを原則としてほしい。特に長期化した場合、パーソナルスペースの欠如は精神的な疲弊につながる。（女性、40代、東葛飾地域）

○今後もまだまだ不安な、新型コロナウイルスと合わせた視点で更なる災害の対策をしていく必要があると思います。（女性、30代、葛南地域）

○避難所は大人数になることが懸念されるので、極力自宅避難を考えています。避難所での感染防止の周知をしていただきたいです。（女性、30代、千葉地域）

○避難所ごとの受け入れキャパシティや受け入れ状況を、平素から、又、素早く知ることができるようにして欲しい。（男性、50代、千葉地域）

○台風１５号でかなりの被害を受けましたが、一番厳しかったのはスマホなどの電波が入らなかったことです。知人と連絡すらとれない、情報も入らなく、本当に最悪でした。また、通行止めも未だにあり不便です。電波の強化は特に力を入れてほしいです。電波さえあれば、自分で調べて情報は手に入るので。（女性、20代、長生地域）

○台風被害の際、携帯のアンテナ局へも被害が発生し、情報を得る手段がありませんでした。アンテナの拡充やＷｉ－Ｆｉの拡充を検討して欲しいです。（男性、30代、君津地域）

○停電の時の迅速な復旧工事ができるような体制を作ってほしい。（女性、60～64歳、海匝地域）

○昨年の台風１５号では、自然災害の怖さを思い知らされた。備えなければと思いながら、まだまだ十分では無く、気がかりだ。避難先（親戚、知人宅等）の確保もしたい。（女性、65歳以上、安房地域）

○未だに防災無線が聞き取りにくいので改善してほしい。（男性、40代、印旛地域）

○重複災害を想定したガイドラインを、各地域ごとの特性を活かして策定されるといいと思います。あとは、情報難民が出ないよう、アナログの対策も意外と重要かと思います。（男性、40代、葛南地域）